

# 東京都杉並区におけるジェンダー平等を広めるための 協働提案事業の取り組み ー ブックリスト発行を中心として ー

渡 辺 典 子\*

Collaborative proposal business efforts to promote gender equality in Suginami Ward, Tokyo:  
Focusing on the publication of a book list

Noriko Watanabe

## はじめに

本稿は、地域におけるジェンダー平等を推進するための試みを検討するものである。具体的には、東京都杉並区と区民の団体である杉並女性団体連絡会<sup>(1)</sup>とが、協働提案事業として初めて取り組んだ「杉並区立男女平等推進センター情報・資料コーナーの整備と有効活用～区民がジェンダー平等について自ら調べ、学び、考えるための『場』の充実～」(2022-2023 年度)における、2023 年度に発行したブックリストを中心とした試みを取り上げる。ここでいうブックリストとは、両面カラー印刷した A4 用紙を中央で折り A5 サイズ 4 ページとした大きさのものである。筆者は、区民の立場で本事業にかかわった。

2022 年度に発行したブックリストの内容報告は、本紀要前号で行ったが、その段階では協働提案事業の制度や本事業を区側で担った杉並女性団体連絡会(以下、杉女連とする)の概要などを述べたのみで、本事業の評価についてはふれられなかった。そこで本稿では、2023 年度に発行したブックリストの内容と、ブックリスト発行を含めた本事業全体の評価を報告する。そのうえで地域における課題解決に向けて何ができそうかを考えたい。

この間の杉並区では、2022 年の区長選挙で 3 期務めた区長が僅差で交代し、杉並区で初めて女性の区長が誕生した<sup>(2)</sup>。その後 2023 年に行われた区議選では、女性区議が多く当選し東京 23 区で唯一、

女性議員が半数を占める議会となった<sup>(3)</sup>。新区長の公約にジェンダー平等の推進が掲げられており、この意味において、本報告は 2 年間の協働提案事業の総まとめ的な位置づけであるとともに、今後の杉並区におけるジェンダー平等行政の出発点とも考えられるものである。

本稿の目的は、昨年度同様、以下の 3 点である。1 点目は、地域でジェンダー平等を広げるための試みの記録を残し、他地域の参考にすること。2 点目は、ジェンダー平等にかかわる書籍をまとめておくことで、自己学習の手助けとすること。3 点目は、時代状況を理解する一助とすること。

本稿の構成について述べる。「1」で 2023 年度に発行したブックリストの全体像を紹介する。「2」では、ブックリスト作成に当たって見解の相違がみられた点について、2022 年度発行のブックリストにも関わるが 2023 年度発行分を中心に、意見のすり合わせで困難だった部分などについて記す。「3」ではブックリスト発行を含めた協働提案事業全体の評価をもとに、成果が見られた点について具体的に紹介する。そして最後に、本事業終了後の動きや杉並区の状況をふまえ、ブックリスト発行に携わった立場から、今後の杉並区におけるジェンダー平等を広げるために行えそうなことを述べておきたい。

## 1. ブックリスト 2023 年度の概要

ブックリストは前年同様に A5 サイズ両面カラー

\* 群馬県立女子大学

印刷の体裁で、掲載本の表紙が目立つようにデザインし、カラフルで手に取りやすいように工夫をした。第7号から第12号を発行し書籍は35冊を紹介、その中には、絵本4冊、児童書4冊、コミック1シリーズ、「歴史を動かした杉並の人びと」シリーズとして2冊、著者の話を聞く講演会関連の本3冊を含んでいる。毎回、区内の施設161か所<sup>(4)</sup>と杉女連関係を合わせて2000部印刷し、講演会や区役所での男女共同参画週間展示、阿佐谷地域区民センターでの「女性に対する暴力をなくす運動週間」展示、杉女連主催の企画である平和を願う映画会でも配布した。

各号の初めには、SDGs（Sustainable Development Goals）の略。持続可能な開発目標）のロゴを掲げた。SDGsとは、世界で共通して掲げている目標で2030年までに解決することを目指している。その目標は17あり、「1. 貧困をなくそう」「2. 飢餓をゼロに」「3. すべての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「6. 安全な水とトイレを世界中に」「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤を作ろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任、つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」「16. 平和と公正をすべての人に」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」とされている。ブックリストでは、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」が17の目標すべてにかかわる<sup>(5)</sup>ことを強調するために、それぞれの号で取り上げる目標のロゴを掲載した。以下、それぞれの号のテーマとSDGsのロゴを記す。（掲載本と紹介文については巻末資料1～6参照。）

### 〔第7号〕

今号は、「多様な性」を知る本を紹介しますがまだまだ「多様な性」は知られていません。知ることが人権を守る第一歩です。  
ロゴ…目標3・目標5・目標16

### 〔第8号〕

「女だから〇〇は無理」「男は〇〇でなくちゃ」と思

い込んでいませんか？

無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）は差別につながります。

今号は「アンコンシャス・バイアスをなくす本」を紹介します。

ロゴ・・・目標5

### 〔第9号〕

私の体は私のもの

大切なこととからだを守るために、すべての人にリプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）が必要です。

ロゴ・・・目標3・目標5

### 〔第10号〕

子どもの権利を守ろう

1994年、日本が子どもの権利条約を批准しました。そして2023年4月、子ども基本法<sup>(マフ)</sup>が施行されました。

ロゴ・・・目標4・目標5・目標13・目標16

### 〔第11号〕

家族ってなんだろう

ひとり親家族、里親と子の家族、ステップファミリー、いろんな家族がある。

今号は“家族”を考える本を紹介します。

ロゴ…目標3・目標5・目標10・目標16

### 〔第12号〕

ジェンダーの視点からメディアについて考えよう

ネット・テレビ・新聞の情報や、その広告は、大きな影響力があります。

ロゴ…目標5・目標8・目標10

上記のテーマやロゴ、そして巻末資料に掲げた書籍については、会議での話し合いを重ねて選択・変更したものであるが、内容部分に関して避けようがない変更もあった。それは4ページについてである。4ページはもともと、「歴史を動かした杉並の人びと」とのコーナーで地元ゆかりのある本の紹介を行うこととして出発し、そのための書籍も複数候補を準備していた。しかし事業を進めていくと、杉女連側で協働提案事業の企画を紹介する広報の手

段を持っていないことに気がつき、4ページ目を活用することになった。そのため、この2年間で発行したブックリスト12号中6号分は読書会や講演会などの広報に使用することとなった。話し合う余地のない変更ではあったが、宣伝という点においてその効果はあったと考えられる。この点については後述する。

## 2. ブックリスト各号発行にかかわる見解の相違

各号のブックリスト発行に至るまでには、まずは杉女連内部で、つぎに杉女連側と区側で対面での会議を行っており、ここでは、それらの会議の中で意見が分かれた主な内容について、簡潔に6点にまとめることとする。以下のまとめは、筆者が編集・発行メンバーとしてかかわった中でのことであるため、筆者個人の見解が前面に出ているものであることをあらかじめ断っておきたい。

1点目は、SDGsの目標のうち、どの目標を掲載するかについてである。ジェンダー平等はすべての目標にかかわるため、どの目標のロゴを選んで掲載するかは毎回議論となったが、紹介する本との関連がはっきりわかる目標だけを掲げることとなった。個人的には、本事業の目的「ジェンダー平等を広めるため」に照らせばジェンダー平等はすべての目標にかかわるため、関係するロゴをすべて掲載する必要があると考えていたが、様々な制限の中で十分な説明を加えることは難しかった。

2点目は、使用する言葉についてである。上記で紹介したSDGsの目標ロゴの取捨選択の趣旨と重なる部分もあるが、“わからない言葉は使わない”か、“必要な言葉はわからないからこそ広める必要がある”かである。本事業の目的である「ジェンダー平等を広めるため」には、誤解を受けやすい言葉は正確な意味とともに一般に広める必要があり、そのような啓発的な内容を含めるかどうかどうか、その都度、丁寧に話し合いを行ってきた。その結果として、会議の参加者全員が理解できるものを掲載するとの方針で一致した。そのため、第12号を例にとると、「メディアリテラシー」<sup>(6)</sup>の用語を使用しないこととした。その理由は、「メディアリテラシー」の中に「メディアを通じコミュニケーションする能

力」を含むか含まないかの見解が分かれたためである。

3点目は文字数についてである。“手に取ってもらうために文字数をできるだけ少なくする”か、“説明責任を果たすために丁寧に説明する”か、である。何に対してどの程度の説明が必要か、で、毎号激しい議論が交わされた。大変大まかに2つの立場に分けるとすると、“毎号のテーマに即した内容紹介を書くことが必要”か、“本を読んだことがない人に内容を想像できるように書くことが必要”か、となる。また、特に思い入れのある本が掲載候補本となった際の内容紹介については、それぞれ注目する箇所が異なり、意見のすり合わせには時間を要した。それぞれの文章案をもとに、会議参加メンバー皆でさらに良い表現を作る作業を重ねた。

4点目は絵本に対する考え方である。大変大まかに見解をまとめると、絵本は“多様な要素を分かりやすく表現しており読み手を限定しないもの”ととらえるか、“説教的内容を分かりやすく表現したもので読み手は子ども”ととらえるかである。絵本が掲載本の候補に選ばれた場合、伝えたい内容が、他の書籍で代替できそうな内容かどうかを会議参加者でその都度判断し、絵本の体裁のものは必要最低限の掲載とした。

5点目は体裁である。“新鮮味を持たせるためには、毎号、変化をつけた方がよい”か、“同じ書式にした方が手に取る人にわかりやすい”か、である。発行当初は、新鮮味を追求するために毎号変化をつけようとデザイナーを依頼して作成し始めていたが、会議での話し合いの結果、ほぼ同じ書式で作成することとなった。

6点目はイラストについてである。“多くの人に手に取ってもらうために、イラストがあった方がよい”か、“イラストは子どもっぽくなるので避ける”か、である。5点目と重なるが、たたき台の段階ではデザイナーにイラストを挿入した案で作成を依頼したが、会議の結果、削除とされることが多かった。その代わりに、ブックリスト全体の背景に薄く色をつけるなどして、可能な限り新鮮味を失わないような工夫を重ねた。

以上、主に6点にまとめて見解の相違を述べてきた。この相違は、ブックリストの作成に20歳代から70歳代までと幅広い世代が関わっており、立場

の違いとともに価値観の相違が大きかったものと考えられる。

### 3. 発行の成果や評価

これまで検討してきたように、協働提案事業としてのブックリスト発行は区側も杉女連側も初めての試みであったため、丁寧に話し合いを重ねながら柔軟に対応してきた。本章ではその成果や評価について、杉女連がまとめた「令和5年度（2023.4～2024.3）事業報告」と杉並区NPO等活動推進協議会<sup>(7)</sup>による「総評」を紹介する。

「令和5年度（2023.4～2024.3）事業報告」でブックリスト発行は、「図書活用」の6つの事業のうちの1つに位置づけられている<sup>(8)</sup>。その成果とまとめの部分を以下に記す。

#### 【成果】

①男女平等推進センターには、ジェンダー平等がわかる本があることを、絵本・コミック・児童書を含めて紹介することで、幅広い年齢層に伝えることができた。

②SDGsの目標5「ジェンダー平等を達成しよう」だけでなく、目標3・4・8・10・13・16にも触れ、ジェンダー平等がSDGs全体に関わる、と伝えることができた。

③コンパクトサイズで作り、区役所展示などで配布したことで、「男女平等推進センターの紹介」に役立つことが分かった。

#### 【まとめ】

①昨年度と合わせて、69冊を紹介できた。絵本・コミック・児童書を含め、ジェンダー平等をわかりやすく伝える本が男女平等推進センターにあることを明らかにした。

②出版界には、今、ジェンダー平等の風が吹いている。特に「男性がジェンダー平等を考える」本、「人間らしい働き方」を目指す本、「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」に関する本はどんどん刊行されている。ブックリスト「ゆう杉並でみつけた」の発行は終わりであるが、何らかの形で、これらの本を区民に紹介してほしい。

杉並区NPO等活動推進協議会による評価は、ブックリスト発行も含めた事業全体<sup>(9)</sup>の評価となるが、「A（高く評価できる）」であった。今後の課題を見通すためにも、その全文を以下に紹介する<sup>(10)</sup>。

#### 【総評】

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、「A（高く評価できる）」と評価した。日本におけるジェンダーギャップは深刻な状況であり、自治体レベルからの改善も同時に求められる領域であろう。本事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されるなか、提案団体の熱意と活発な活動によって、協働の効果を大いに発揮し、事業目的を十分に達成できたと評価する。

協議会の委員からも活動を評価する意見が多く出された。なかでも、他部署との調整により、男女平等推進センター外の展示場所の確保に成功したことは、行政の縦割りを超えた活動に発展させたことを意味し、特筆すべき点であろう。くわえて、男女共同参画事業の意義を顧みれば、多くの住民への理解促進が要求されるべき領域であることから、ジェンダーや幅広い世代に向けたイベントの実施については、より一層の多様性が確保された区民参加につながる工夫を求めたい。

一方、担当部署をはじめ区に対する意見も出された。さらに広く区民の関心や理解の深化のためにも、男女平等推進センター内の資料の効果的な活用が目指されなければならない。そのために、同センターに所蔵されている文献や資料の貸し出し等の利便性の向上、また文化資源としてのそれらの保存、保管のあり方、若年層への理解促進のための教育関係機関との連携が課題として挙げられるだろう。しかし、こうした課題解決には担当課のみで解決することは困難であり、他部署との連携が必要である。杉並区における男女共同参画事業の促進のためにも、管轄の縦割りを排した取組を今後の課題として提示したい。



上記の「総評」に見られるように、2年間の協働提案事業は高く評価された。筆者が実感した具体的な成果としては、主に以下の4点を指摘したい。

- ア) ブックリストをコンパクトサイズで作成したため、イベントなどで渡した人たちがブックリストを持ち帰っていたこと。筆者は地域活動等で不特定多数を相手にチラシを渡すことを長年行っているが、イベント終了後には館内のあちこちに渡したはずのチラシがおかれていたり、ゴミ箱に捨てられていたりといった光景をよく見ている。ブックリストに関してはそのような光景を見なかった。
- イ) 本事業の一環として土曜日の午後実施したレファレンス時に、ブックリストを見て本を探しに何人もの人たちが来館したこと。
- ウ) 男女平等推進センターの階下にある児童青少年センターを利用する子どもたちへの宣伝ができたこと。子どもたちが情報・資料コーナーを見学に来たり、本を借りる姿が見られるようになった。児童青少年センターにブックリストを置くだけでなく、書籍の貸出展示も行うようになったことは杉並区 NPO 等活動推進協議会による評価でもふれられているように大きな成果と考えられる。
- エ) ブックリスト4ページで読書会や講演会の企画を紹介したことは、会場となった男女平等推進センターに多くの人を集める大きなきっかけとなったこと。区の方でも SNS を利用した宣伝を行ったこともあると考えられるが、それまで「不便だから人が集まらない」とみなされてきた場所に、企画が良ければ人が集まることを証明したといえる。

以上、ブックリスト発行に関することを中心に検討してきた。その結果、2年間で「杉並区立男女平等推進センター情報・資料コーナーの整備と有効活用」がなされたと言え、本事業の成果が表れたとみることができる。

## おわりに

「杉並区立男女平等推進センター情報・資料コーナーの整備と有効活用」の事業は終了しブックリス

ト発行も終了した。図書紹介に関しては、本事業開始以前の形に戻り、区が1年に2回発行するセンターだより『ゆう Can』に、新着本一覧を紹介する形となった一方で、著者を招いた講演会と読書会、児童青少年センターへの貸出展示は、杉女連の活動として継続することとなった。

この2年間で、蔵書の整備を行いそれらを活用する基礎はできたと考えられるが、そもそもセンターの蔵書がどのようなものなのかについて最後に述べておきたい。というのは、なぜ現状のような蔵書の形となっているのかが、本事業を行って初めて理解できたためである。

筆者は、10年以上前のことになるが杉並区民となった際すぐに男女平等推進センターを訪れた。HP の案内には「男女共同参画に関する図書・行政資料・地域資料などを揃えています。」とあり、専門性をうたったアピールをしていると読み「図書・行政資料・地域資料」についてある程度のことが調べられる場所であると考えたためである。しかしセンターの書架には、法律が何度も改正されていても新しいものは入っておらず古い情報が掲載された本が並べられたままであったり、白書類は年度が連続していないなど、不思議に思えることがあった。本事業に取り組み、運営側の立場にも立つ中で、①「情報・資料コーナー」は図書館とは異なって「区側が集めた資料を区民に提供する」、つまり区が集めることができたものを提供している、②図書館は情報を更新する蔵書整理をするが、センターは司書が不在のため難しい、③白書類は継続して購入しているわけではなく、担当者が必要だと思ったら購入している等の説明を聞き、理解した次第である。区としても多様な制約がある中で、新しい書籍は、その年に受け入れた本と前年に受け入れた本をセンター入り口のブックトラックに並べ、それ以前のは書架に配架するとの形をとっており、試行錯誤しベストを尽くして運営していることは伝わってくる。しかし本事業を経たことで、利用者が増えている現在、それだけでは不十分となってきたと考えられる。2006年の教育基本法「改正」以降、学校と家庭と地域の連携に関わる条文が新設され、子どもたちが地域の施設に調べに行くことが増えた。さらに本事業で児童青少年センターとの連携が作られており、新旧の情報が混在した書架では、利用者には

誤った情報が伝わってしまう危険がある<sup>(11)</sup>。また、地域でジェンダー平等を進めるために「情報・資料コーナー」は重要な役割を担う場所であり、課題として指摘された「男女平等推進センター内の資料の効果的な活用が目指されなければならない」ためにも、「資料」の質を保証することが必須といえる。本事業は終了したが、皆で知恵を持ち寄ってより良いあり方を探る機会を作り、“ジェンダー平等について自ら調べ、学び、考えるための「場」”を充実させることを通して、ジェンダー平等を推進する人を増やし、より良い地域づくりを行っていきたい。

## 〔注〕

(1) 杉並女性団体連絡会とは、1954年の原水禁署名運動で活躍した女性たちの流れをくむ団体で、教育、環境、消費者、高齢者福祉等、それぞれのテーマで活動していた女性を中心とするグループが、横のつながりを持つために結成した連絡会である。杉並女性ニュース編集委員会編『杉並女性ニュース セッション』（創刊号通巻57号、1990年7月、杉並区教育委員会社会教育部婦人青少年課発行）参照。

(2) 杉並区長選挙 開票結果（定数1）

得票順	当選	候補者氏名	得票数	得票率
1	当選	岸本 さとこ	76,743	44.41%
2		田中 良	76,556.724	44.30%
3		田中 ゆうたろう	19,487.275	11.27%
合計			172,786.999	100%

（「令和4年6月19日執行 杉並区長選挙・区議会議員補欠選挙 開票結果」

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kusei/senkyo/r04kuchoukugihoh/1077942.html> 2024年11月3日最終閲覧）

(3) 杉並区議会議員定数48のうち、性別非公表の1人を除く47人のうち女性が24人となった。

（「杉並区議会＞議員紹介＞議員プロフィール」<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kugikai/giin/profile/index.html> 2024年11月3日最終閲覧）

(4) 配布先区内施設は以下の通り。区役所パンフレットラック、男女平等推進センター、児童青少年センター、地域区民センター、区民集

会室、区民事務所、区民会館、コミュニティふらっと、子ども・子育てプラザ、消費者センター、協働推進センター、産業商工会館、ゆうゆう館、区立小学校・養護学校、区立中学校、福祉事務所、障害者交流館・障害者福祉会館、図書館。

(5) 例えば、外務省や内閣府のホームページには以下のような説明がなされている。

○外務省「国際社会におけるジェンダー主流化の動き」

「平成27年（2015）に国連で採択された、『持続可能な開発目標（SDGs）』を中核とする『持続可能な開発のための2030アジェンダ』では、『ジェンダー平等の実現と女性・女児の能力強化は、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである』とされています。』

（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/women/index.html> 2024年11月3日最終閲覧）

○内閣府男女共同参画局『みんなで目指す！SDGs×ジェンダー平等』

「ジェンダー平等は、すべてのゴールに関わっています。それぞれのゴールについて男女別のデータを分析し、女性と男性にどのような影響があり、どうしたら女性と男性が平等に恩恵を受けられるかを考えて、すべての政策・施策・事業を企画・実施していくこと（ジェンダーの主流化）が重要です。」

（<https://www.gender.go.jp/public/subtextbooks/pdf/subtextbooks.pdf> 2024年11月3日最終閲覧）

(6) 「メディアリテラシー」とは、総務省ホームページでは以下のように説明される力である。

「メディアリテラシーとは：次の3つを構成要素とする、複合的な能力のこと。

1. メディアを主体的に読み解く能力。
2. メディアにアクセスし、活用する能力。
3. メディアを通じコミュニケーションする能力。特に、情報の読み手との相互作用的（インタラクティブ）コミュニケーション能力。」

（[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_)

tsusin/top/hoso/kyouzai.html 2024 年 11 月 3 日  
最終閲覧)

- (7) 杉並区 NPO 等活動推進協議会とは、「杉並区 NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する条例平成十四年三月十九日条例第七号」の第 16 条に、「NPO 等の活動及び協働の推進に関し必要な事項の審議等を行うため、区長の附属機関として、協議会を置く。」と定められる組織である。そのメンバーは第 17 条で、「協議会は、次に掲げる者につき、区長が委嘱する委員十名以内をもって組織する。一 区民 二 NPO 等活動関係者 三 学識経験者」とされている。
- (8) 他の 5 つは、レファレンス、男女共同参画週間などのイベント時の貸出展示、読書会、著者を招いた講演会、センター階下にある児童青少年センターへの貸出展示である。
- (9) 事業については、「図書活用」事業以外に「地域資料の収集・整理及び目録化」を含んでいる。
- (10) 「協働提案実施事業最終評価表【令和 4・5 年度実施事業】」  
([https://www.city.suginami.tokyo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/\\_001/018/149/r4-5hyoka.pdf](https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/018/149/r4-5hyoka.pdf) 2024 年 11 月 3 日最終閲覧)
- (11) 例えば、法律、保健、医療は、変更が大きい分野であるが、予算がついた際に購入されたものが並べられているのみで新しい情報が大変少ない。例えば、性教育に関して言えば、現在は包括的性教育が進められている時代であるが言及されている文献が少ない上に、性的マイノリティにふれていなかったり、「オギノ式と基礎体温を併用すれば、確率高く避妊できます。」(深江誠子『わたしの性ってなんだろう』2000 年 7 月 松香堂)などと書かれているものも同じ書架に並べられたままである。利用者に誤解を受ける内容は早急に対応すべきと個人的には考える。

このような現状を改善する具体的な策として思いつくものを、以下に箇条書きにする。

・「情報・資料コーナー」が「区側が集めた資料を区民に提供する」との役割に関しては、その旨をホームページに明記する。現状の

「揃えています」との表記ではなく“区が集めることができたものを提供しています”とする。

・情報を更新する蔵書整理ができないことについては、古くなった情報を書架に配架したままにするのではなく別の場所に移す。

・最新情報等は、掲示板を作成するなどして利用者に伝えるようにする。他のセンターでは、新聞記事を切り抜き展示しているのを見かける。また、日本では使われ続けている用語の「性同一性障害」は、2019 年に WHO の総会で「精神障害」の分類から除外され「性別不合」に名称変更されているので、そのような変更内容等も掲示できるようなコーナーを作成する。

〈資料1〉ブックリスト7号



『82年生まれ、キム・ジョン』  
チョ・ナムジュ 著 斎藤真理子 訳  
筑摩書房

★講演会  
「キム・ジョンから始まる自分らしい生き方」  
斎藤真理子さん（翻訳家）  
7月1日(土)13:30～15:30

お問い合わせ・申し込みは以下のメールアドレスへ  
[ishitoko@jcom.home.ne.jp](mailto:ishitoko@jcom.home.ne.jp)  
講演会の申込受付は6月1日から

☆『82年生まれ、キム・ジョン』読書会  
①5月13日(土) 13:30～15:30  
②6月10日(土) 13:30～15:30

利用登録することで、図書を1人5冊、15日間借りられます。

杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナー



【企画・編集・発行】杉並区女性団体連絡会/杉並区（男女平等推進センター）

〒167-0051
東京都杉並区萩生1-56-3
03-3393-4410
開館時間 9:00～17:00
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始

杉並区協働提案事業 杉並区女性団体連絡会×杉並区

## ゆう杉並でみつけた！

男女平等推進センターにはさまざまな本がいっぱい

<第7号> 2023年5月発行  
情報・資料コーナーブックリスト



今号は、「多様な性」を知る本を紹介します

3 すべての人に  
健康と福祉を

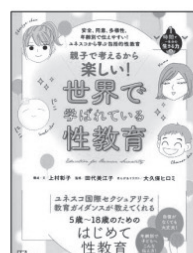
5 ジェンダー平等を  
実現しよう



16 平和と公正を  
すべての人に




まだまだ「多様な性」は知られていません。  
知ることが人権を守る第一歩です。



『親子で考えるから楽しい！  
世界で学ばれている性教育』  
文・上村彰子 監修・田代美江子  
まんが&イラスト・大久保ヒロミ 講談社


「多様な性」について  
子どもと話してみませんか。



3 すべての人に  
健康と福祉を

『オレは絶対にワタシじゃない』  
トランスジェンダー逆襲の記  
遠藤まめた はるか書房


セーラー服を着るのが苦しかったオレ。  
やっと見つけた居場所づくりの活動記。



16 平和と公正を  
すべての人に

『差別はたいてい悪意のない人がする』  
見えない排除に気づくための10章  
キム・ジヘ 著 尹怡景訳 大月書店

無自覚な差別に気づくには？  
マイノリティの人権を守ることが  
みんなの人権を守ることにつながる。



3 すべての人に  
健康と福祉を

『あおいらくだ』  
河田まみこ・長村さとこ 著 横真知子 絵  
北樹出版

それぞれの「違い」が  
すてきな個性になる絵本。



5 ジェンダー平等を  
実現しよう

『図解でわかる  
14歳からのLGBTQ+』  
社会応援ネットワーク 太田出版

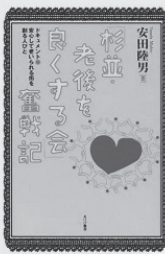
「性」は男性と女性だけじゃない。  
からだの性。こころの性。  
好きになる性。表現する性。  
その組み合わせはたくさんある。





〈資料 2〉ブックリスト 8 号

シリーズ：歴史を動かした杉並の人びと(5)



『杉並・老後を良くする会』奮戦記  
ードキュメント・安心して暮らされる町を創る人びと』  
安田 隆男 あけび書房

「住み慣れたまちで最後まで安心して暮らしたい」主婦を中心とする地域住民の想いと願いが、杉並の福祉行政を大きく変えた。

利用登録することで、図書を1人5冊、15日間借りられます。

杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナー



〒167-0051  
東京都杉並区荻窪1-56-3  
03-3393-4410  
開館時間 9:00～17:00  
休館日 月曜日（祝休日の場合は翌日）  
年末年始

【企画・編集・発行】杉並女性団体連絡会/杉並区（男女平等推進センター）

杉並区協議提案事業 杉並女性団体連絡会×杉並区

ゆう杉並でみつけた！


男女平等推進センターにはすてきな本がいっぱい

＜第8号＞ 2023年7月発行  
情報・資料コーナーブックリスト

「女だから〇〇は無理」「男は〇〇でなくちゃ」と  
思い込んでいませんか？

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）は差別につながります。  
今号は「アンコンシャス・バイアスをなくす本」を紹介しています。



『ぼくのママはうんてんし』（絵本）  
おともやす 福音館書店

とくべつかいそく たかおいきの  
うんてんせきに ママがいる。  
「しんこう！」 ママって、かっこいい！

「子育ては女性に向いてる」は思いこみ

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

『ジェンダーのとびらを開こう  
自分らしく生きるために』  
村田昌子・森脇健介・矢内等江・弓削尚子  
大和書房

高校生・大学生が先生と話しあながら  
ジェンダーをときあかしていく。

『新しい  
パパの  
教科書』  
NPO法人ファザリング・ジャパン  
学研プラス

『新しいパパの教科書』  
NPO法人ファザリング・ジャパン  
学研プラス

パパは地球で最もステキな仕事。  
仕事も育児も楽しんで。  
笑顔のパパでいよう。

『男子が10代のうちに考えておきたいこと』  
田中俊之 岩波ジュニア新書

「男の子から、泣くな」なんて言わないで。  
自分の感性も、他人の心も大切に、  
幸せになろう。

男子が10代のうちに  
考えておきたいこと  
田中俊之

『さよなら、田中さん』  
鈴木るりか 小学館

たくましく働くシングルマザーと娘。  
素快で豊かな生き方はけがされる。

『さよなら、田中さん』  
鈴木るりか 小学館

「女の子はやさしく、男の子はたくましく」は思いこみ

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

– 46 –




〈資料4〉ブックリスト 10 号

シリーズ：歴史を動かした杉並の人びと(6)


『猿橋勝子 女性科学者の先駆者』  
清水洋美 沙文社

杉並区高円寺にあった中央気象台の研究者。ピニニ水爆実験の「死の灰」を分析し、「核実験は地球全体の問題」と世界に訴えました。



利用登録することで、図書を1人5冊、15日間借りられます。

杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナー



〒167-0051  
東京都杉並区萩窪1-56-3  
03-3393-4410  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）  
年末年始（12月28日~1月4日）

【企画・編集・発行】杉並女性団体連絡会/杉並区（男女平等推進センター）

杉並区協議提案事業 杉並女性団体連絡会×杉並区

ゆう杉並でみつけた！

男女平等推進センターにはすてきな本がいっぱい

＜第10号＞ 2023年11月発行  
情報・資料コーナー ブックリスト

子どもの権利を守る

4 目の悪い児童を  
みんなに

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

13 気候変動に  
具体的な対策を

16 平和と公正を  
すべての人に

1994年、日本が子どもの権利条約を批准しました。  
そして2023年4月、子ども基本法が施行されました。



『ちいさいひと  
青葉児童相談所物語』 1〜6  
矢竹桃子 小学館

新米の児童福祉司が虐待や  
育児放棄から子どもを救う福祉コミック。

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

『あなたの教室』  
レティシア・コロバンニ 斎藤可津子訳  
早川書房

フランス人の元教師は、  
インドで、少女に命を救われた。  
「女に勉強はいらない」と虐げられた  
彼女のために行動をはじめ。

『グレタのねがい』  
地球をまもり 未来に生きる  
ヴァレンティナ・キャメリ  
杉田七重訳 西村書店

地球温暖化は、わたしの危機。  
15歳のグレタの呼びかけに世界が動く。

13 気候変動に  
具体的な対策を

『グレタのねがい』  
地球をまもり 未来に生きる  
大人になるまで  
待つ必要なんてない  
西村書店

『こども六法』  
山崎聡一郎 弘文堂

イラストつきで誰でも楽しく読める法律書。  
知って、使いこなそう。

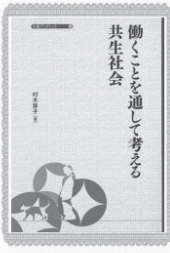
『こども六法』  
山崎聡一郎 弘文堂

『ボーダー 移民と難民』  
佐々涼子 集英社インターナショナル

国を逃れ日本にきた人々を描くノンフィクション。  
人は生まれてくる場所を選べない。  
「私たちを助けてくれるの？」  
少女の言葉は重い。

16 平和と公正を  
すべての人に

〈資料5〉ブックリスト 11号



元厚生労働省事務次官  
**村木厚子さん 講演会**  
支えること、支えられること

3月9日(土) 13:30~15:30

お問い合わせ・お申し込みは以下のアドレスへ  
ishitoko@jcom.home.ne.jp  
(2月1日受付開始)

『村木厚子さん関連本』読書会  
①1月13日(土) 13:30~15:30  
②2月10日(土) 13:30~15:30

『働くことを通して考える共生活会』  
村木厚子 日本経済評論社

利用登録することで、図書も1人5冊、15日間借りられます。

杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナー



〒167-0051  
東京都杉並区萩原1-56-3  
03-3393-4410  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）  
年末年始（12月28日~1月4日）

【企画・編集・発行】杉並女性団体連絡会/杉並区（男女平等推進センター）

杉並区協働提案事業 杉並女性団体連絡会×杉並区



## ゆう杉並でみつけた！

男女平等推進センターにはさまざまな本がいっぱい

〈第11号〉 2024年1月発行  
情報・資料コーナー ブックリスト

家族ってなんだろう

3	すべての人に 健康と福祉を 実現しよう	5	ジェンダー平等を 実現しよう	10	人や国の不平等を なくそう	16	平和と公正を すべての人に
---	---------------------------	---	-------------------	----	------------------	----	------------------

ひとり親家族、里親との家族、ステップファミリー、いろんな家族がある。  
今号は“家族”を考える本を紹介します。



『シングルファザーの年下彼氏の子ども2人と格闘しまくって考えた『家族とは何なのか問題』のこと』  
花田菜々子 河出書房新社

子ども親もありのままの気持ちで言いあって一緒に生きていく。

ジェンダー平等を実現しよう

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



『パパのカノジョは』  
ジャニス・レヴィ 作 クリス・モンロー 絵  
もん 訳 岩崎書店

パパと二人暮らしの家にやってきたカノジョは、子どもを応援する大人だった。リスペクトしあう「新しい家族」たち。

人や国の不平等をなくそう

10 人や国の不平等を  
なくそう



『家族の幸せの経済学』  
山口徳太郎 光文社新書

データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実  
データからわかったことを家族の幸せに活かしてみよう。  
・育休パパの勇気は伝染する  
・保育園は母親の幸福度を上げる

『やさしい猫』  
中島京子 中央公論新社

母が心ひかれたスリランカ人のクマラさん。かけがえのない日常を突然奪われた「家族」の物語。

『DV後遺症に苦しむ母と子どもたち』  
林美保子 さくら舎

苦しみが暴力の後からやってくる！  
DVには深刻な後遺症があります。暴力から離れても、継続的な支援が必要だと教えてくれます。

リフログタイプ・ヘルス・ライヴをすべての人に



〈資料 6〉ブックリスト 12 号

国際女性デー ミモザまつり

【日時】 3月6日(水)～3月8日(金) 10:00～16:30  
 【場所】 ゆう杉並2階 男女平等推進センター  
 ○パネル展示：同世代を生きた市川房枝と山川菊栄  
 ○蔵書展示：『青箱』複製版など  
 ☆輪読会は 3月7日(木) 13:30～  
 どなたでも参加できます。ぜひお越しください。

利用登録することで、図書は1人5冊、  
 15日間借りられます。

杉並区立男女平等推進センター 情報・資料コーナー

〒167-0051  
 東京都杉並区秋津1-56-3  
 03-3393-4410  
 開館時間 9:00～17:00  
 休館日 月曜日（祝休日の場合は翌日）  
 年末年始（12月28日～1月4日）

【企画・編集・発行】 杉並区団体連絡会/杉並区（男女平等推進センター）

杉並区協働提案事業 杉並女性団体連絡会×杉並区

ゆう杉並でみつけた！

男女平等推進センターにはすてきな本がいっぱい

<第12号> 2024年3月発行  
 情報・資料コーナー ブックリスト

ジェンダーの視点からメディアについて考えよう

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

8 働きがいも  
経済成長も

10 みんなの平等  
をなくそう

ネット・テレビ・新聞の情報や、その広告は、大きな影響力があります。

東大で大人気！  
 名物講義の番外編

『炎上CMでよくみたジェンダー論』  
 瀬地山角 光文社新書

女性にも男性にも「ジェンダー平等を表現している」とされるCMと炎上CMはどう違うのか、  
 具体例でよくときます。

ジェンダー平等を表現しよう

10 人々の平等を  
なくそう

『呪いの言葉の解きかた』  
 上西充子 晶文社

ドラマ、コミック、映画、時事問題から、  
 自分を解放する「灯火の言葉」を見つけます。  
 「私は自由だったんだ」と心から思える日のために。

『女性情報』  
 バド・ウィメンズ・オフィス編集

全国主要6紙に掲載された記事を、  
 テーマでまとめて発行。  
 最新情報がわかる月刊誌です。

『女性情報』  
 2023 4  
 3月1日～31日

『足をどかしてくれませんか。』  
 メディアは私たちの声を届けているか！  
 林香里緒 聖紀書房

メディア現場に働く女性たちが、ジェンダー平等の  
 現実と、変えていく決意を語ります。

働きがいのある、人間らしい仕事

